

日新
 苟日新 まこと ひ あら 苟に日に新たに
 日日新 ひび あら 日々に新たに
 又日新 また ひ あら 又日に新たなり
 出典 「大学」

日新地区だより 31号



「ゆめ・にっしん」は、平成18年2月創刊。「日日に新たに」ゆめある日新まちづくりの一翼を担い、地区文化の向上を願って今日に至っています。

発行：地域の誇り・まちづくり日新広報部会
 文京5丁目1-8 日新公民館
 発行日：2014(平成26)年9月20日

ゆめ
 にっしん

日新さんさんバス

試行運行で 継続運行に！

6月以降の乗車人数が一ヶ月あたり800人を超すまでになったさんさんバスですが、来年3月まで再度、試行運行という形で継続運行されることになりました。コースと時刻を変更した5月には450人、そして6月、7月に至っては800人を超す右肩上がり乗車人数を記録したものの、一年間を通しての実績を必要とするため、来年3月まで運行を延長するというもの。



春山小前に行くさんさんバス

乗客の急増 廃線を阻む

本来、25年度の乗車人数実績から判断すると、今9月末で廃線となるべきところでした。ですが、5月のコースと時刻を変更したことによる乗車人数の急激な増加が、廃線を押しとどめたのです。もちろん、地区の皆さんが一体となって乗車人数を増加させたことは言うまでもありません。そうした皆さんの熱意が、行政の心を揺さぶったのかも知れません。



本格運行にはならなかったものの、本格運行への道が途絶えたわけではありません。外出を控える冬を迎え、乗車人数の減少が心配されますが、何とか3月まで今の勢いを堅持し、春の訪れとともに、本格運行の便りを耳にしたいものです。

日新地区の活性化は、さんさんバスによるところが大きいのです。さんさんバスは、私たち“人”だけでなく、日新の明日をも運ぶ重要なバスなのです。

交通部会

本格運行への集大成

部会長 山口 満

地区住民のみなさん 着実にその成果が出ている状況にお礼を申し上げます。

特に5月からの新ルート、新企画により乗車人数が7月には過去最高の830人を達成しました。この増加は、④地区全体にその趣旨が徹底され協力体制が確立された事(新規乗客の着実な増加)⑤田原町を経由してエルパや鯖江方面など地域外への利用が拡大した事⑥さんさん会員の積極的かつ強力な協力があつた事⑦乗客サポート制度の推進(乗客の皆さんも絶賛)⑧各団体の行事(日新小児童生徒や、花園幼稚園児の単発利用)などに広く活用して頂いた結果です。つまり、利用者層の拡大や利用方法の多様化が、乗車人員増加となった要因なのです。

『本格運行』を最大のテーマ(課題)として現在に至っていますが、しかし、8月7日の福井市の審議委員会にて、残念ながら来年3月まで、乗客数の実績経過確認をするとの結論が出されました。そのため今後も引き続き乗客数の増加を図っていかねばならなくなりました。具体的には、実績目標を月800名とし、現状で月約700名前後の乗客数ですから、月に約100名の人員増をして行かねばなりません。一日に換算すると4名、バス一台当たり0.7名を増員する勘定になります。

この数字を達成するため、交通部会として、多岐にわたる企画立案を推進していく事はもちろん、サポーター制度など現状の体制の強化をはかりながら今事業の成功を目指していきます。

稼働効率が極めて悪くなる冬場シーズンを迎えるに当たり、住民の皆さまのご協力をお願いするものです。少しでも喜んで頂けるような街づくりと高齢者の皆さまの活動フオリが出来ればと思っています。頑張つて成功させます。ご協力を宜しくお願いします。

特別寄稿

今年5月末、福井テレビの特別番組に、昨年、日新小学校で開催された「ハートフルサタデー」で私たちに感動をくれた「JETS」が出演していました。番組名は、『チカッペ！1時間スペシャルやるっきゃないっ〜福井商業高校チアリーダー部の8年〜』。ところが、番組の中の彼女たちは、あの栄光に満ち溢れいきいきと演技していたチアリーダーたちではありませんでした。夢に挑戦し苦悩する女子高生たちでした。なぜそこまでするのか？なぜそこまで頑張れるのか？密着取材を続けている福井テレビ制作部の担当ディレクターが寄稿してくれました。

福商JETS 全米制覇の裏側

密着取材が教えてくれたもの

福井テレビ制作部 棚田 恭子

「きらきらした女の子たち」。6年間JETSを見た中で毎年変わらないのは、夢見る少女たちの目でした。

福井テレビのスポーツ番組「チカッペ！」(土曜日午後6時から放送)が、最初にJETSを取り上げたのは2009



©fukui-tv

年。この年初めて全米制覇を成し遂げました。彼女たちの力の源は「夢ノート」です。大きな夢から小さな夢まで何でも書いていいノート、達成するとシールを貼ります。ノートにびっしり貼られたシールを見ると、力が湧いてくるのだと言います。彼女たちは「全米制覇」という実現不可能にも見えた大きな夢を、夢ノートからもらった力で叶えたのです。JETSのメンバーはどこにでもいる普通の女子高生です。今回の番組では6代目部長の東汐梨さんに密着しました。スイーツが大好きな女の子。彼女は悩みや不安を抱えながらも部長として必死でした。「ぐっと唇を引き締め耐える姿」。そして

「笑おうとしながらも耐えきれず涙する姿」。全米制覇への道は生半可なものではないのだということがひしひしと伝わってきました。怒られて、悩んで、苦しんで、それでも必死に夢に向かって立ち向かう東さん。「自分がやらなくちゃ」、見ていて苦しくなるほどの覚悟でした。しかし、全米制覇を達成した後に彼女が見せてくれたきらきらした笑顔。夢が叶うとこんなにも輝いた笑顔ができるのかと感激したことが強く胸に残っています。



©fukui-tv

一方で、顧問の五十嵐裕子先生は全米制覇に関して、「優勝することも大事だがそれよりも自分を好きになって



©fukui-tv

卒業してくれることの方が嬉しい」と話します。東さんのきらきらした笑顔は、彼女が自分を好きになることができた証であり、同時に五十嵐先生の願いが叶った証でもあると感じました。

『夢見る力の大きさ』。今回の番組を制作するにあたって視聴者の皆さんにお届けしたかったことなのです。そして、私は、ただ憧れるだけでなく、実現に向かい必死にもがき行動し続ける

ことが大きなものを手にするための唯一の道であることを学ばせてもらいました。今後もJETSへの取材は続いていきます。生徒たちは代替わりしていきますが、変わらずきらきらした女の子たちが出迎えてくれるのだろうと楽しみにしています。

真夏のイベント開催

2自治会で民踊大会や夏祭り

7月19日の「日新地区民踊大会」を皮切りに、乾徳、文里の両自治会で民踊大会や夏祭りが開催されました。

今年の「日新地区民踊大会」は、堀ノ宮自治会の担当で、堀ノ宮白山神社境内で開催。自治会内外から多くの民踊愛好家が集いました。



また、7月25日も、乾公園で「乾徳地区民踊大会」が行なわれ、ここにも民踊ファンが大勢集まり楽しんでいました。翌日には同じ場所でも「乾徳夏祭り」が開催され、自治会の皆さんの手作

り料理が店頭を飾り、香ばしい香りをただよわせていました。



27日の日曜日は、文里地区の「夏祭り」でした。午後6時、創設30周年を迎えた「上里子供太鼓」の力強い太鼓で幕を開けた祭りは、昨日までとは違う涼しさの中、大勢の人たちで賑わいました。ここでも民踊大会が盛大に行われ真夏の祭典を心ゆくまで楽しんで

いました。

堀ノ宮と宮島両地区では、10月に秋祭りを予定。堀ノ宮地区は10月4日に民踊大会、5日に本祭りを予定。宮島地区は10月12日に祭りを予定しています。



わが町点描

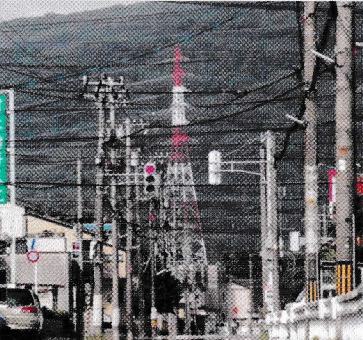
上里第二自治会会長 高村 啓市

上里第二自治会は文里地区11自治会のほぼ中央に位置し、古くからの鎮守の社「白山神社」に隣接していて、ここで毎年文里夏祭りが行なわれます。この町はとてもユニークで生活環境に恵まれています。

まず、東西に1キロ余りの直線道路が町を貫いて走り、その西の先には東京タワーと見紛う鉄塔が聳え、その道に沿って三ヶ用水が流れています。そこには春から秋にかけてウグイか鮎か、更にはザリガニや川にな等が棲息し、時には白鷺やカルガモのつがい飛来することもあります。そこでは、こども達が魚取りに喜々として興じています。こういう水辺の風情がまだ残っているのです。

また、この道沿いにある坪川さん宅のつつじの生垣が、五月ころになると見事な花を咲かせて、行き交う人々の目を楽しませてくれます。前記の道に交差して、南北にも直線道路が走っていますが、またその北の先には北大（北海道大学、札幌市）の時計台ならぬ藤中の時計台が見えます。その藤中の前には広々と田んぼが広がり、初夏には緑、秋には黄金色で一面が染まり人々の目を奪います。

次に、この地域一帯には、小学校から大学までの教育機関や様々な科の医療機関が近接して存在しています。更に、従来からある交通機関に加えて、最近日新地区をこまめに周回して、交通弱者と云われる人々の生活の足となる「さんさんバス」が走り始めました。



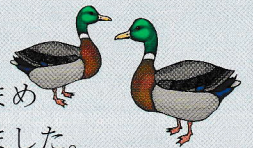
安全茶屋開かれる

7月25日午後1時過ぎから約1時間、公民館前の通りで、通行中のドライバーに交通安全を呼び掛けました。当日は朝から気温が高く、昼過ぎには34.1℃を記録、汗だくになりながら安全マスコットなどを手渡していました。

警察官の指示で何かと停止した運転手も、事情がわかるとにこやかに安全運転の呼び掛けに頷いていました。



交通安全
呼び掛け



広報部会

31号をお届けします

部会長 勝木 文彦

台風被害、豪雨被害が相次いだ8月の日本列島。見るに堪えない惨状が次から次へと伝えられました。

福井では、酷暑が続く、例年になく厳しい気候になりました。しかし、地区の人たちは元気でした。民踊に夏祭りにと取材に行きましたが、みなさん、澁刺と楽しみ燦々と輝いていました。記事で伝えたかったことです。

ところで、この機関紙ですが、まだまだ文字が多く、“見る”機関紙になっていません。今まだ“読む”機関紙です。脱皮を図ろうとしています。そして、皆さんが待ち遠しくなる「ゆめ・にっしん」をつくり上げて行きます。

した壁画が飾られています。



校名の「藤島」はこの辺りが昔「藤島の庄」であったことからそれになんで付けられました。校門横の塀には、生徒の伸びゆく姿などをモチーフにした壁画が飾られています。

昭和60年(1985)に開校しました。

日新かるた紹介(5)



日新春秋

やさしい音色が豊かな心を育む

「コカリナの不思議」

4月末、子供たちと一緒に近くの牧場へ出かけて牛の餌やりや搾乳等の体験をさせてもらった。私は牛たちへのお礼？に首に下げたコカリナを吹いてみることにした。何と、20頭近くいる牛たちが一斉に動きを止めて私の方を向いて奏でた曲に耳を傾けているではないか。かつて、森でコカリナを吹いた時も小鳥が私に聴いてくれたことがあるが、同じ様な現象を察すると、動物たちも音楽に興味があるようである。特にコカリナは木で作られていることから、その温もりのある優しい音色に惹かれるのかもしれない。

私はひまわり児童館でお誕生会や読み聞かせ等の折に子供たちの前でコカリナを吹いている。ざわついていた子供たちが静かになる瞬間であり、目を輝かせてじつと聴いている姿は実に美しく新鮮である。私は児童館での仕事を通して、子供たちに音楽の素晴らしさや美しさ、感動すること



の大切さを感じてもらい、豊かな心を育んでくれることを願いながら、コカリナを吹き続けていきたいと思う。

ひまわり児童館
館長 本多 嘉史

いつまでも元気で

夏バテは秋にやってくる

(協力:福仁会病院)

～秋を元気に過ごそう!～

秋の気配を感じる頃に、体がだるい、食欲がないなどの夏バテに似たような症状で、体調がすぐれない秋バテが多くなります。

夏バテと秋バテ

夏バテ:真夏に体調を崩す体調不良のこと

秋バテ:暑い時期を乗り越えた秋に体調を崩す体調不良のこと

- ◆ 胃腸の疲れによる消化機能の低下、体液バランスの乱れ
- ◆ 屋内と屋外の温度差や秋の気象による自律神経の乱れ
- ◆ 睡眠不足等による体力の低下など

原因は



元気に秋を過ごす3つのポイントは…

- 食事:1日3食、規則正しく、バランス良く、よく噛んでゆっくり食べる
- 入浴:ぬるめのお風呂にゆっくり浸かり、心身をリラックスさせる
- 運動:朝夕の涼しい時間帯を選んでウォーキングや軽い運動をし、適度に汗をかく



まとめ

読んでおわかりのように、秋バテ対策は、特別なことをして積極的に治そうとするのではなく、自然な回復を待つのがポイントです。“季節の変わり目”に特有の劇的な気候の変化は、心身にとってはかなり大きなストレスです。無理のない生活を心がける事が大事です。

文化部会

7月の活動

部会長 山崎 豊

7月4日に恒例の伝統文化体験学習を実施。日新小学校6年生による実地体験を通しての歴史の勉強をしました。午後2時からの開会式の後、午後3時半までの間、華道と茶道をしっかりと学びました。毎年の事ですが、茶道は、茶を点る役と飲む役の両方を体験するために制限時間いっぱい掛けてしまいました。

一方、華道は早く終わったので体験感想の発表会をしました。それでも時間が余ってしまい、廣瀬館長に数学の話で時間調整をしていただきました。その後は小学生全員が日新さんさんバスで帰宅。今年よりスタッフの茶会廃止でペットボトルでの茶会で終了でした。



7月12日には、日新小学校でハートフルサタデーの行事の世話役応援を行ないました。藤島中学校吹奏楽部、smile合唱団、コカリナ演奏の3つの音楽会が行われ、素晴らしいサウンドを耳にすることができて非常によかったと思います。



環境部会

福商生 今年も参加

～総勢 240 人余りで美化活動～

副部会長 前川 栄寛

「地域の誇り・まちづくり日新」の美化活動に、今年も福井商業高校生が参加してくれました。

7月1日、学生229名、教職員7名とまちづくりスタッフ7名が、草の回収、ミソハギの中の草抜き、ゴミ拾いなど、1時間余り作業をしました。



前日の豪雨で心配しましたが、好天に恵まれ作業日和となりました。おかげで、非常にきれいになり心から感謝しています。地域の人にも喜んでいただけるものと思っています。当日は、人海戦術で作業もはかどりました。また、活気とみなぎるパワーを見ているのも楽しく、私たちまで活力をいただきました。また、「校下が美しくなるのはうれしい」と学生たちが話していたことに心打たれました。



まちづくり日新では、一斉清掃や定例清掃に取り組んでいますが、こうした活動に拡がり期待しつつこれを機にさらに頑張りたいと思っています。

底喰川周辺は、こうしたボランティア活動によって美化が保たれています。また、植物・生き物観察などを実施しており、子供たちの学習の場でもあります。環境維持にはさらなる地域の皆様のご協力が必要です。よろしくお願ひします。